

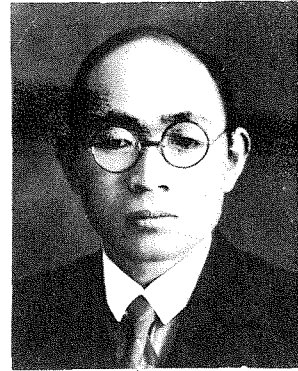
大東京七年度 計畫路線内容

大東京建設に伴ふ昭和七年度東京府失業救済都市計畫路線工事は工事費のみで3,300,000圓用地補償費を合算すれば、實に7,100,000圓餘に上るが内譯は左の如くである。

△澁谷町地内13ノ7號線工費120,000圓 △千駄ヶ谷町地内13ノ10號線工費160,000圓 △大久保町地内13ノ11號線工費16,000圓 △高田町地内13ノ12號線工費126,000圓 △三河島町地内13ノ15號線工費14,000圓 △砂町地内13ノ17號線工費530,000圓(橋梁工事費を含む) △淀橋町地内13ノ19號線工費270,000圓 △大崎町地内13ノ20號線工費280,000圓 △寺島町地内13ノ21號線工費110,000圓 △大森町地内13ノ23號線工費160,000圓(橋梁工事費を含む) △目黒驛前跨線橋工費20,000圓 △高田町地内21ノ11號線工費60,000圓 △大井町地内22ノ19號線工費270,000圓 △澁谷町地内22ノ21號線工費490,000圓 △千駄ヶ谷町地内22ノ22號線工費270,000圓 △戸塚町地内22ノ25號線工費65,0

0圓 △瀧野川町地内22ノ2號線工費200,000圓 △吾嬬町地内22ノ28號線工費50,000圓 △荏原町地内放2號線工費200,000圓 △代々幡町地内放5工費580,000圓 △杉並井荻町地内放6工費330,000圓 △板橋赤塚町地内放8工費390,000圓 △三河島尾久町地内放11工費200,000圓 △大森並に池上町地内補8工費330,000圓 △目黒町地内補18工費200,000圓 △落合町地内補43工費220,000圓 △落合町地内補44工費230,000圓 △王子町地内補59工費25,000圓 △三河島町地内補65工費35,000圓 △千住並町地内補65工費38,000圓 △千住町地内補67工費45,000圓 △本田町地内補86工費240,000圓 △澁谷町地内還6工費200,000圓。

琵琶湖周遊道路 明年中に完成か 日本一、近江の琵琶湖周遊ドライブ・ウエー完成の最後の鍵である海津、木之本線は七年度から付替改修が行はれるので滋賀縣當局では去月廿六日から土木課員が現場に出張伊香郡鹽津村岩熊から同郡永原村月出を経て八田



京阪國道改修土木工營所長 原田 民 部 氏

郡までの約四千間の實地測量を開始した。主務省から起債許可あり次第着工明八年度中には竣工の豫定である。

京濱間に新國道 神奈川縣では東京府と協力して現在の京濱國道に並行して更に國道一本造るべく計畫を樹て目下調査中である、昨年縣が行つた交通量調査の結果に依れば現在の京濱國道は交通輻輳して狹隘であり、軍事上からもまた横濱市並に縣の埋立地の完成でこれが必要を痛感する譯である。

上にして、其内多少の輸出を除くの外は全部國內のコンクリート工事に使用さるゝもので、其コンクリート量は一年間に180萬立坪、之を價格にして約2億5千萬圓に達する。斯る巨大な工事材量を占むるコンクリートは、世界の工世上實に重大なる使命を有するものである。

他の構造物は工場内にて製造するが、コンクリートは殆んど工事現場で造るものであるから、施工上非常な注意を要するものである。随つて、今後益發改良をしなければならぬ點は、先づ強度の均一である。次に強度を早く高める事である。此等の目的を達する一助として、レデー・ミキスのコンクリートを販賣する事は、大都市のコンクリート工事には最も必要な事である。

コンクリートの強度は現在600#/sq位と目され、杉や松材の強度と等しく、檜より少く劣つてゐる程である。それ故同じ強度の部材としては、木材の方がコンクリートより断面が少なくて良い有様である。若しコンクリートの強度を毎平方時に750封度に高めたなら杉や松と同等になり、900封度に高めたら檜と同様になる。近き將來に於て900封度には高めなければならない、斯くして工費の節約をするのみならず、工事期間を短縮する事も大とならう云々。

次に海軍中將波多野貞夫氏は火兵學會を代表して、産業は總て合理的に實行しなければならぬ。精密工業の發達進歩も又同様であると論じ、休憩後午後一時半再開、今岡純一郎

○香川縣の道路費 昭和六年度の香川縣下道路修繕費補助 9,353圓は此程開會した臨時縣參事會の議決により、左記路線へ交附することとなつた。

▲大橋線 2,700圓
▲海岸線 893圓 ▲中徳三切線2,700圓 ▲江畑道2,990圓 ▲平木、氷上線500圓。



○京都市國道改良費 京都市から申請の國道改良費の國庫補助に對し左の通り鈴木内相から15,000圓を交附する旨一日指令した。1. 2號國道東大路改良費に5,000圓を補助す。1. 大正9年より同14年間に實施の街路改良費に對して10,000圓を補助す。

○荒玉水道擴張計畫 東京府北豊島郡荒玉水道町村組合では總工費748,211圓の豫算を以つて擴張計畫を樹て水道配水管増設工事をなすべく之が工事施行認可方を申請中であつたが、愈々近日中に認可される見込みである。給水地域は北豊島池袋一帶で之が工費の支出は敷設費の剩餘金約百萬圓を充當するはず。

○信濃發電壓力隧道 信濃川水力

發電所新設に伴ふ壓力隧道の選定は本省建設局で打合せ中であつたが、諸般の調査も終つたので四月上旬に確定する筈である。

○逓信省建築技術關係に三月下旬次の移動があつた。

和田信夫氏 逓信技師高等官二等經理局營繕課長を命ぜらる。

藤本勝往氏 依願免本官逓信省經理局營繕課長。

○清瀧街道六月完成 大阪府下から王寺縣道は例の峠の地之のため交通上支障を來



したので右道路に代るものとして北河内郡から生駒郡北倭村に至る清瀧街道は富雄村を経て奈良市に至る重要な路線となり、貨物自動車などの交通量は最近急速的に増加してゐるが、右道路中北倭村高山芝橋から北田原に至る約2キロメートルは狹隘の上凸凹が多いので、縣では工費20000圓を投じこれを幅員2間半に擴張すべく目下實測中で6月ごろよてに完成の豫定である。

○間組新築移轉 株式會社間組では去月末事務所を青山南町一丁目



京阪國道改修土木工營所技師 西村 隆雄 氏

一番地に移轉した。尙從來丸ビルで營業中の同組建築部も同時に新事務所に移轉した。

○今井宏氏 同業鐵道新聞社長今井宏氏はかねて病氣中の處療養叶はず四月十六日遂に永眠せられ、十九日午後一時より下谷中根岸の安樂寺に於て告別式が擧げられた氏は年三十四歳多望も多き將來を残して逝



かれたのは哀惜の極みである。

博士は我邦造船に就て述べ、特にアーク・ウェルドの發達により近く鋼材の規格を改めねばならぬ事を發表し

次に建築學會を代表して大熊喜邦博士は、明治十九年建築學會の創立以來の建築界の推移と思想に就て述べ、現代の大衆本位の建築概造物の傾向を述べ、事業界、請負界の大勢及び政府事業の營繕統一の完成を述べ、次いで建築教育の普及により今や我國内にて年々5千名の學校卒業者を出すの盛況となり、隨つて概造上の研究も發達し、特に地震國としてのコンクリート工事は著しく發達しつつある。今後の建築はコンクリートと鋼と硝子の

三主要材で出来る傾向にある。其他懸賞競技の發達、建築各種材料の發達、住宅の簡易實用化等に渡り廣汎なる論述があつた。

次いで豫定の如く、莊司市太郎博士の、日本の化學工業に就て、機械學會を代表して朝倉希一博士の日本の機械工學及工業に就て、納富磐一博士の電氣工學に就て、大畑源一郎氏の電氣通信に就て、鯨井恒太郎博士の照明工學に就て等の講演があり、最後に田邊朔郎博士の勳議にて博士より講演者及工學會役員に對し會員を代表して謝辭を述べ、一同拍手の裡に散會したのは午後五時半であつた。